

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)事業の効果検証シート

番号	交付対象事業の名称	事業の概要・目的	総事業費(千円)	交付対象事業に係る交付金(千円)	本事業における重要業績評価指標(KPI)	本事業終了後における実績値	平成27年度の事業効果・成果	担当課の評価	外部有識者からの意見	今後の事業方針	担当部課名
1	コミュニティバス事業	路線バス運行廃止等による交通弱者対策として、苓北町巡回バスを運行し、町民の円滑な交通手段の確保と併せ、福祉の向上を図る。	6,785	6,100	・巡回バス利用者数 1万人 ・新規雇用 2名	・巡回バス利用者数 7,335人 ・新規雇用 2名	地域住民の生活及び福祉向上のための手段として巡回バス運行(主に2～5便)を実施した。また、天草拓心高校の生徒の交通手段として下田・富岡間(1・6便)の運行も併せて実施した。合計2,039便を運行し、バス利用者数は、計画1万人に対し、実績7,335人であり、73.3%となった。  各方面(2～5便)の便数と利用者数は、坂瀬川方面 454便、4,697人(内4,630人は温泉利用)、富岡方面 440便、1,379人(内1,014人は温泉利用)、都呂々方面 438便、779人(内490人は温泉利用)となっており、およそ89%の方が温泉を利用され、健康増進に繋がっている。	「2」・・・やや不十分	・都呂々地区の路線は利用しにくい形態ではないか。また、利用しにくいから利用者が少ないのではないかと。  ・地域に定着しておらず、改善の余地があり、効率的なやり方でやって欲しい。そのために、地区(区長・老人会など)の意見を聞いた上で、ルート・時間帯を含め改善を図ること。	運行計画を利用者等からの意見を基に随時見直すこととしており、平成27年度においても、路線に関する各区長へアンケート調査をおこない、平成28年4月より一部路線の変更を行っており、今後も、更なる利用促進を図るために、現在災害復旧工事施工中のため運行停止している区間の運行再開や、新規ルート追加の検討を行っている。  また、利用の少ないルートについては、地元区長・老人会などの意見を聴取し、だれもが利用しやすい運行形態を検討していく。	企画政策課
2	観光振興事業	夏に行われる苓北じゃっと祭(イベント)の開催を支援する。また、交流人口の拡大と新たな観光振興として、本町は世界遺産に推薦された長崎の教会群とキリスト教関連遺産にある天草崎津集落までは、長崎からの最短コースにあたることから、崎津集落までのクルージングを開催する。併せて、イルカウォッチングを開催することにより、交流人口の拡大と、新たな観光資源の発掘を行う。	5,500	5,500	・観光客数 1.2万人	・観光客数 1万人	平成27年8月1日、2日において、苓北じゃっと祭を開催。観光客数は計画1.2万人に対して1万人となった。イベントの目玉として、天草崎津集落までの西海岸クルージング及びイルカウォッチングを行った。非常に評判が良く、次回開催してほしいなどの声が多かった。しかし、西海岸クルージングは往復約3時間のクルージングとなるため、1日2便が限度であり、集客には乏しいものであったが、イルカウォッチングとあわせ新たな観光資源としての魅力と可能性を含んだものと考えられる。  天草西海岸クルージングのアンケート結果では、時間設定(約3時間)・再度参加したいか・満足度について、70%超の高評価をいただいた。しかし、観光資源として活用するには、定期便ではなくイベント、ツアー会社との連携を図り、海上が穏やかな春から秋にかけて、限定的な商品として売り出すことが、最も有効ではないかと考えられる。  また、VISITあまくさしまばらプロジェクトにおける観光アクセスルート開発実証事業においても、西海岸クルージングについては、これまで見られなかった天草西海岸の景観や、ボランティアガイド付きの説明や崎津集落のまち歩きなど可能性を秘めたコンテンツであると高評価された。しかし、課題となるのが、地域内の周遊アクセス整備が必要でありこれらの連携が成されれば商品化の可能性が高まるとされた。	「3」・・・ほぼ予定どおり(今後も現状維持)	・崎津集落が世界文化遺産に登録されれば、富岡港から崎津集落までの定期(不定期)便での期待ができるのではないかと。  ・西海岸クルージングは、これからは、苓北観光汽船が中心となってやっていく話であり、内容は旅行会社などとタイアップして集客を狙うイメージだと思うが、町はどういう関わりをしていくのが見えてこない。  ・今後は、有料でのイベントを計画してはどうか。	イルカウォッチング・西海岸クルージングは非常に評判が良かったため、一つの目玉として次回の開催も検討する。今回の試みは人気があり早い段階で事前予約が埋まったので、増便(時間帯)等の検討が必要である。  また、平成28年度は、魅力的な観光商品の開発を行い、その一つとして、西海岸クルージングなどを新たな観光資源として商品化の検討を行う。  なお、苓北観光汽船においては、富岡・下田・崎津間の不定期航路の資格を取得しており、今後の利用促進が期待される。しかし、下田漁港においては、船を接岸する施設がないため、クランプなどの施設整備が必要であるため、天草市との連携も含め検討を行う。	商工観光課
3	ICT教育支援事業	本町では、学力検査等で基礎的・基本的事項の定着力は高くなっているが、思考力や読解力を問う「活用」を主とした問題は、定着率が低いことや、個の差が大きいなどの問題が見られるため、ICT機器を有効的に活用することで、児童の興味関心を高め、思考をつなぐ学習を展開し、児童が、ICTに触れながら情報活用能力を育成し、分かりやすく深まる授業を実現することを目的に、タブレット授業を推進するための施設整備を行う。また、ICTの活用を円滑に進める環境づくりのため、ICT支援員を新たに配置し、魅力ある学校づくりを推進する。	5,240	3,400	・ICT支援員の雇用 1名 ・ICT教育推進研究校の指定 1校	・ICT支援員の雇用 1名 ・ICT教育推進研究校の指定 1校	県学力調査の26年度と27年度の国語及び算数の総合定着率、活用定着率の推移を比較(5年(4年時)・6年(5年時)との比較)した結果、全体的な伸びがみられた。特に算数における伸び幅が大きく、前年度と比較し、活用では18～25ポイント・総合では9～16ポイントの伸びがみられた。 また、9月(タブレットPC導入直後)と12月に児童の意識調査アンケートを2度実施した結果、「学習に取り組む姿勢」「思考・判断・表現」「協働学習」「電子黒板の活用」「タブレットの活用」の全ての項目において、プラス結果となった。 さらに、先生が授業でのICTの活用方法や場面等を考えることにより、これまでの授業を見直す機会にもなり授業改善に繋がっている。	「4」・・・ほぼ充分であるが、もう少し推進が必要	・他の小中学校も普及・習熟していくように取り組んで欲しい。  ・予算と教師の技量が整えば確実に児童にはメリットだけ残るのか?あるいは違ったデメリットも出てくるのか、検証をしてもらいたい。	初めてのタブレットPCの導入ということで、いろいろな場面で活用を行った。そのため、活用のねらいとのずれや児童の思考の流れとうまくかみ合わない活用の仕方もあった。今後は、活用の場面や活用の仕方を絞って児童の思考力を高める効果的な活用を行っていく。また、27年度は、5・6年生を中心にタブレットPCを活用してきたが、今後は、低学年や特別支援学級での活用も進めていきたい。さらに、職員間でICT機器の接続や操作等個人差があるため、技能研修の時間を増やしていく。  また、タブレットPC授業が児童にどのような影響をもたらしているのか、平成28年度も引き続き検証を行う。	教育委員会
4	学校教育支援事業	本町では、現在、通常学級に在籍する発達障害などのある生徒への教育的対応が求められており、教育上特別の支援を必要とする生徒に対し、学校生活における生活支援・学力保障のための学習支援を行うため特別支援教育支援員を配置し、生徒が安心して教育を受けられるよう支援を行います。	13,759	9,641	・特別支援教育支援員の配置 8人	・特別支援教育支援員の配置 8人	各校の事情に応じ、小学校5名、中学校3名の計8名を配置した。日常の動作の介助や学習活動上のサポートを行うことができた。また、発達障がいについての講話を聞く機会も受け、支援員のスキルアップを図ることができた。	「3」・・・ほぼ予定どおり(今後も現状維持)	・特になし	各校のニーズに応じた研修機会の提供が必要である。(支援員の校内研修への参加など、連携・情報共有のために教育委員会からの働きかけが必要である。)また、児童・生徒一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、その持つ力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服できるよう、適切な指導及び必要な支援について、検討し実践する。さらに、特別支援教育に関する保護者等への理解・啓発を行っていく。	教育委員会